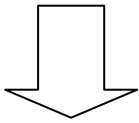


表紙直しとその工程

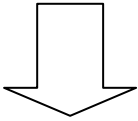
和装本の表紙は一般に、一番表おもてに薄い染紙があり、それに何回も裏打ちをしたり、分厚い反古紙ほごかみなどの芯紙を当てて作られている。

< 損傷が小さい場合 >

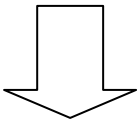
1 修理前



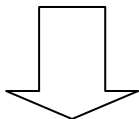
2 裏返して損傷部分の芯紙を剥がす



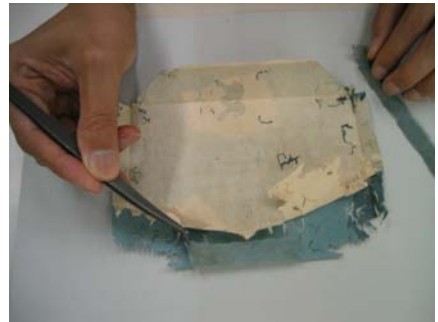
3 表紙の染紙と同じような紙を、損傷部分の裏から貼る



4 元の芯紙を貼り戻す



5 修理後



< 損傷が大きい場合 >

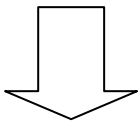
- ① 表紙全体が損傷している場合は、染紙をすべて芯紙から剥がす。

表の染紙の傷みが激しい場合は、「表打ち」して動かないようにしておく。

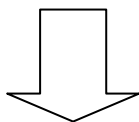
- ② その染紙と同じような紙を裏打ちする。
- ③ 元の芯紙を貼り戻す。

場合によっては、裏打ちを繰り返して必要なだけ厚くして仕上げ、元の芯紙は別保存とする。

1 修理前



2 「表打ち」をして、染紙を芯紙から剥がしたところ(①)



3 修理後(②③)



「表紙直し」における「表打ち」とは

虫損が甚だしい場合や、カビや擦れによって表紙の染紙が脆弱になっている場合、そのまま形を保って芯紙から剥がすことは難しい。

その場合は、表から薄い和紙を貼り（「表打ち」）、その後に芯紙を剥がすことによって、残っていた表紙の染紙の破損や散逸を防止できる。

その状態で裏打ちをして、その後、表打ち紙は取り除く。